

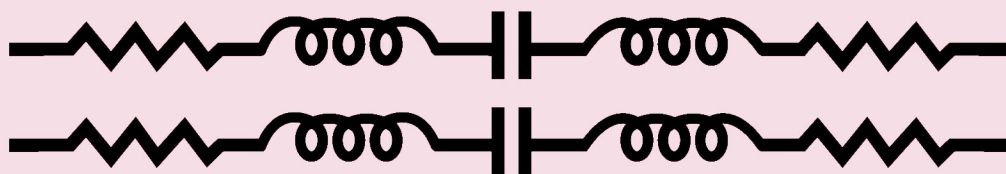


岩手大学電気電子情報科会誌

きたかみ

第 67 号

2021 年 3 月 発行



目 次

会長挨拶	会長 久保田賢二	1
志田純一先生追悼特集		
ご略歴		2
志田先生を偲ぶ	太田原 功	2
恩師志田先生の思い出	田山 典男	3
志田先生が生涯の仕事を与えてくださいました	澤藤 隆一	5
志田先生と賢治「中庸の教え」	田代 良二	6
電気電子通信コースの近況	電気電子通信コース長 本間 尚樹	7
知能・メディア情報コースの近況	知能・メディア情報コース長 萩原 義裕	8
第17回（令和元年度）草刈賞受賞者		9
《支部だより》令和2年度東京支部報告	狩野 利之	11
令和2年度仙台支部報告	田中 利光	12
令和2年度盛岡支部報告	宮手 敏雄	13
盛岡支部からの寄稿		
印象深かった先生方	升谷 堯	14
私の勤めている会社について	大羽澤仁志	16
盛岡近郊フルーツ巡り	立花 龍一	17
令和2年度岩手大学電気電子情報科会総会・議事録		18
令和元年度決算書・令和2年度予算書		19
令和2年度3年度岩手大学電気電子情報科会役員名簿		20
令和2年度電気電子通信コース、知能・メディア情報コース教職員名簿		21
創立80周年記念式典のご案内		22
総会添付資料・理事会議事録		23
令和2年 年表		24
岩手大学電気電子情報科会会則		26
編集後記		27
令和3年度総会のご案内		裏紙

ご 挨拶

会長 久保田賢二（昭和 42 年電気卒）



会員の皆様にはご健勝にてお過ごしのこととお喜び申し上げます。ここに会誌「きたかみ 67 号」をお届けできますことを嬉しく思います。

昨年は年初より、新型コロナウイルス感染拡大防止対策のために、各位におかれましては何かとご労苦の多かったことと思います。また今年 3 月 11 日で東日本大震災から 10 年が経ち復興は大分進みました。この間の被害に遭われた会員の皆様のご心身のご苦勞に思いを致す次第です。本会では仙台支部のご協力のもとに、6 月に仙台で開催としていた令和 2 年度総会を急遽秋まで延期し、状況の推移を見守っていたのですが、8 月 29 日の理事会で通常の形態での開催は断念し、10 月 3 日に総会に代わる臨時理事会を行い、そこでの議決承認を以って令和 2 年度総会の決議とすることになり、現在に至っております。10 月の臨時理事会（総会）では、既にホームページに掲載されてありますように、令和 4 年（2022 年）1 月 1 日に本会が創立 80 周年を迎えるのを記念して令和 3 年度の総会に併せて実施予定としていた記念式典を 1 年延期し、令和 4 年度の総会に併せて実施することに変更になりましたので、ここにご報告申し上げ、ご了承をお願い致します。

さて、本年も 3 月 23 日に母校を卒業・修了する新たな正会員百数十名を迎えますこと、真に喜ばしいことでもあります。今春の学部卒業者は平成 28 年度に改組・設置された理工学部システム創成工学科の電気電子通信コースと知能・メディア情報コースの第 2 回卒業、大学院博士前期課程（修士課程）修了者は改組後の第 3 回修了、大学院博士後期課程修了者は学年進行中であり、改組前と同じ工学研究科博士後期課程修了とのことです。直ちに社会に出る方、さらに学業を続ける方、また新たな分野に進む方等、進路は分かれることと思いますが、健康に留意し、向後の大いなる活躍を祈念します。

次に、誠に残念な事ではありますが、敬愛する恩師志田純一先生には令和 2 年 4 月 30 日に、菊池孝先生には 12 月 15 日に逝去されました。志田先生は 95 歳、菊池先生は 84 歳だったとのことです。志田先生は昭和 28 年 4 月に岩手大学工学部電気工学科に着任され、平成 4 年 3 月に停年退官されましたが、その間電子工学科、そして情報工学の増設や大学院の設置に関わってこられました。菊池先生は昭和 41 年 4 月電子工学科の発足と同時に同学科に着任され、平成 14 年 3 月に定年退職されました。志田先生は 39 年、菊池先生は 35 年の長きにわたって会員の育成にご尽力下さり、公私にわたって懇切丁寧にご指導下さいました。故志田純一先生並びに故菊池孝先生のご冥福を衷心よりお祈り申し上げます。

本号には、志田先生をお偲ぶする記事を数名の方々から頂き、「支部からの寄稿」は、輪番で盛岡支部から寄稿頂いて、掲載致しました。

ところで本会の運営は、大学入学時に頂く入会費と、卒業後 10 年毎に納入頂く 1 万円の年会費（過去 10 年分の会費）によって賄われております。年会費未納の方には振込用紙を同封しますので、事情をご賢察頂き、納入下さるようお願い致します。

終わりに、本号発行のためにご尽力頂いた方々にお礼を申し上げ、また会員皆様のご健勝を祈念して、ご挨拶と致します。

終わりに、本号発行のためにご尽力頂いた方々にお礼を申し上げ、また会員皆様のご健勝を祈念して、ご挨拶と致します。

志田純一先生を偲んで

志田純一先生

ご略歴



大正15年7月 静岡県で誕生
令和2年4月 逝去

昭和26年3月 東北大学工学部電気工学科卒業
26年4月 島田理化工業株式会社入社
27年3月 島田理化工業株式会社退社
27年4月 東北大学大学院入学
28年3月 東北大学大学院退学
28年4月 岩手大学助手
30年6月 岩手大学講師
36年10月 岩手大学助教授
46年2月 岩手大学教授
平成2年4月 岩手大学評議員（3年6月まで）
4年3月 岩手大学停年退官
4年5月 岩手大学名誉教授



志田先生を偲ぶ

太田原 功（昭和30年電気卒）

志田先生が会誌「きたかみ」に執筆して下さった文章として下記の2件があります（主任教授など、立場上お書きになった文章は除く）。

(1) 大学生生活に夢と希望を：きたかみ40号、佐藤・志田・百足三先生ご退官記念特集号（1993年3月発行）、(2) 「山手線」の旅：電気電子

情報科会70周年記念特集号（きたかみ58号2012年3月発行）。「山手線の旅」は先生が生まれ育った東京への愛着が滲み出た、柔らかな「旅物語」であります。「大学生生活に夢と希望を」の文章は、岩手大学退官記念特別講義の要約文章であり、6頁にわたる教育と研究に対する考

え方を披露された格調高い文章であります。この2件の作風は先生のお人柄を如実に表している文だと思えます。なお、「きたかみ40号」には先生の講座で学ばれた昭和29年卒菊池昭雄氏他5人の方々が「志田先生のお人柄」が偲ばれる文章を寄稿されております。

先生は昭和28年・1953年4月岩手大学電気工学科に赴任されており、在学中の私は昭和30年3月卒業するまでの2年間学生としてご指導頂きました。卒業後昭和33年（1958年）から電気系職員・教員として母校のお手伝いをさせて頂きましたのでこの間先生との交際は多岐にわたっており、多くの事を学ばせて頂きました。

先生は、幅広く社会貢献活動をされておられた故鎌田徳美先生率いる電力応用工学講座（Bコースと略称していた）に所属しており、鎌田先生と共に積極的に社会貢献活動に参画し、

業界からの相談にも気軽に応じておられたようであります。

昭和41年電子工学科の発足、昭和43年大学院工学研究科修士課程の発足、昭和50年情報工学科の発足（北海道・東北地区で初の学科）に貢献されました。急成長する情報社会へ旅立つ電気・電子・情報3学科の学生教育を、3学科教員の持ち味を存分に生かして運用する事を意図したカリキュラム「電気系一体カリキュラム」を作成し、全教員協力のもとに活用されました。

志田研究室から多くの有為の人材を社会に送り出しており、電気電子情報系学科の教員として学科を支えている先生方も数名いらっしゃることは衆知の通りであります。

静岡生れ東京育ちの先生が、岩手大学に赴任されたことによって盛岡をこよなく愛し、永住の地とされたことを奥様からお伺いし、先生への思慕の念を一層深めた次第であります。



恩師志田先生の思い出

田 山 典 男（昭和41年電気卒）

恩師志田先生は素敵な先生でした。4年次の卒業研究室の配属希望では、一番の人気であり「あこがれ」の研究室でした。定員をオーバーして多人数が無理矢理入ったような記憶があります。当時、先生は最新の「自動制御理論」を担当されており、難しい理論を解り易く話され熱意があつて、厳しいけれど筋が通った、とてもカッコいい先生でした。

研究室に入って間もない頃に、一人の学生が

研究機材を壊し、その時は学生全員が教官室ですごく叱られた。機材に触れる時の態度や研究の心構え等の「研究の基本」を叩き込まれた。「研究室はどういう処なのか」を先生は私達へ教えて下さったのです。

それから、卒業研究をやるための基礎実験をグループに分かれてやり始めた。この頃から、皆の研究室での取り組み姿勢が変わってきて、研究・実験に真剣に取り組み出した。深夜まで

実験を行うようになり、山に登って下りたような充実感があった。この頃から研究室の活動が無我夢中でやり始まったのです。

卒業研究になってから、研究懸案の内容が頭の中に入ると、翌早朝の起き掛けに研究懸案に対する「アイデアが湧き出して来る」という不思議な体験が始まった。更に懸案熟考をして上手くゆくと「ワクワク」を感じるようになりました。研究懸案の内容を十分に熟考すると、翌朝にまた「アイデアが湧いて来て」、研究するのがとても面白くなってきたのです。

志田先生は私達の研究の進め方を予め考えて居られて、実験結果に対する考え方やヒントを与えることで、研究の進め方や研究の面白さを私達に教えて下さっていたのだと思います。私は志田先生から「研究する面白さ」を暗黙の裡に体験的に教わったのだと思います。

特に印象深い体験をしました。当時は、トランジスタが点接触型から動作の安定な接合型へ変わった時代で、トランジスタの値段が大変に高価であり、しかも過電流ですぐに熱くなって壊れました。以下はその当時の私の秘話です。

私の卒業研究は、磁心とトランジスタで構成するロイヤ回路の高速化でした。高速化するために大電流を流すので、高価なトランジスタを私は何度も壊した。壊す度に大変恐縮して報告に行くのですが、志田先生は何も言わないで、新しいトランジスタを渡して呉れました。当時研究費が少なかったと思いますが、先生は何も言わず私に新しいトランジスタを渡して呉れたことが、今も心にじいーんと思い出されます。志田先生は、心が広く、筋が通った方でした。

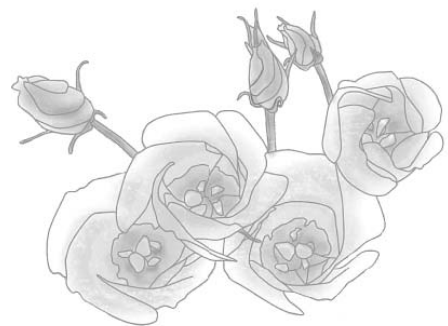
研究室はさわやかで、皆楽しかった。1秒毎の6サイクルを数える超低速なカウンタを設計研究する学生がいた。「6サイクルの歌」が生まれて、皆がよく口ずさむ「研究室の愛唱歌」になった。この歌は何か愉快で、私達の誇りが籠っていた。志田先生も、この6サイクルの歌をコンパで歌っていたのを覚えています。

当時は、研究室の北方向にNHK盛岡放送局の巨大なアンテナ鉄塔があり放送電波を出していました。それで日中は実験データを採ろうとしても、メーターの針が振るえて測れません。私達は、放送が終了する真夜中になってから、本格的な実験を始めるのが毎日でした。それがまた、皆の誇りみたいでもあり、楽しかった。

志田先生の論文が、電気学会誌に掲載されていました。私は学会誌論文というものをこの時初めて見ました。研究が、学会誌論文に掲載されて、新知識として世に貢献することを、感知した。研究が、新しい学識を創り出して、世に貢献するという「研究の本質」を感知した。

志田先生は、大学評議員になられた頃、ある紛争の時に、道は「中庸」にあり、と私達を論じました。当時は深い意味合いが分かりませんでした。歳を経て、志田先生が言われていた「目線の方向性が大事」が分かって来て、人生の「生き方」を教わったと思って居ます。

志田先生からは、年賀状を毎年戴き、いつもお言葉が書いてありお元気のご様子でしたが、突然の訃報をお知らせ頂き、悲しくなりました。先生から沢山教わったことに感謝して、先生のご冥福を心からお祈り申し上げます。





志田先生が生涯の仕事を 与えてくださいました

澤 藤 隆 一（昭和 47 年電気卒）

2010 年度の科会総会で「東京から見た岩手」という題で講演させていただきました。その時に出席された方々にはお話ししたのですが、私が卒業した昭和 47 年当時、電気工学科を卒業して岩手県内に就職しようとするれば、教員、東北電力、国鉄、電電公社がメイン、大手民間企業は谷村新興製作所ぐらいでした。長男なので本来は地元に残らなければならないのですが、これは東京へ行くしかないと思いました。親とも随分話し合い、結局許してくれました。就職担当の一戸英敏先生に呼び出され、「まだ内定していないのは数人だけだぞ、この 3 つの中から選べ」と提示されました。この時代は先生が学生の就職先を指図する時代でした。その中の 2 社は誰もが知っている電気の大企業ですが、私は当時まだ小さな企業だった千野製作所（現チノー）を選びました。誰も知らないはずの企業でしたが、一戸先生は「ここは君の 2 年先輩の梅津君が行っている、良い会社だよ」と仰いました。私は直前に偶然この会社を知ったので、一戸先生が提示された中にその名前を見たときに、これだ！とピンと来てしまったのです。周りのみんなが有名な会社を選ぶときに、寄らば大樹の陰と考えれば随分と冒険だったかもしれません。しかし迷わず選んだのには理由があったのです。

電力応用研究室（志田純一先生、関享士郎先生、菊地新司技官）での卒業研究テーマは「低キュリー温度フェライトコアを用いた精密温度制御」でした。温度制御の研究ですから、制御対象の油にセンサーとしてフェライトコアを入れますが、その雰囲気温度が一定でないと精密温度制御の研究になりません。そこで恒温槽を購入しようということになり、志田先生に呼

ばれて「選定しろ」と言われました。後から考えるとこれはスゴイことでした。高価な設備を学生に選ばせる？ どうしてそんな決断ができたのでしょうか？ 今ならばインターネットで検索できますが、当時はカタログ選定しかありません。一生懸命探しました。

日立や松下ではなく田葉井製作所（現：エスペック）のプラチナスシリーズが良いと思い、志田先生に恐る恐るカタログを差し出しました。すると「あっそう、じゃあそれで行こう」と仰いました。この時の驚きはいまだに忘れません。大阪の町工場の製品です。却下されると思いました。当時トヨタのクラウンよりずっと高価でした。一流企業の製品にしろと言われるだろうと想像していたのです。早速注文しましたが、木枠梱包で送られてきた中に恒温槽の取説が無く、温度調節計の千野製作所のものだけです。忘れていたのだらうと思い、教授の許可を得て大阪へ電話しました。市外電話は高かったのです。返ってきた答えは「扉を開けてモノを入れて、あと操作するのは温調計だけだから、その取説だけあれば十分」との答え、今のエスペックでは考えられませんが、これで千野を知ったのです。卒業研究のテーマがそのまま仕事になりました。しかも電力応用研究室の後輩である長田洋先生の「ザゼンソウ温度制御」アルゴリズムをチノーが調節計に搭載して発売するなど、岩手大学とのご縁が続きました。

志田先生は威厳のある、いかにも大学教授という先生でしたが、恒温槽選定が既に卒業研究の一環だったのでしょう。それが私の生涯の仕事になりました。感謝してもし尽せない有難い先生でした。有難うございます。



志田先生と賢治「中庸の教え」

田代良二（昭和55年電気卒）

私は一関で多感な高専時代を送り、人生修養の目的もあり、大学に進学いたしました。盛岡は玲瓏岩手山と水豊かな北上川、そして賢治や啄木を輩出した街、私たちの学生生活もその後の人生を生きるため大切な時間だったと、改めて感謝の念を感じております。そんな中でも私に大きな影響を与えたのが、志田先生と宮沢賢治です。

志田先生の教え

電力応用講座は厳しいぞと先輩たちから聞かされており、また自動制御もものにならないまま単位だけはいただいた自分にとって敷居の高い講座でありました。先生は電気を使っているなことをするのが応用だから、電子機器も情報機器も含め応用講座の守備範囲だから、難しく考えるなどおっしゃってくれました。後年私の担当で地下鉄車両の自動運転に世界で初めてファジィ制御を取り入れ、安定した運行を行っていると報告したときには、先生にも大変喜んでいただきました。

卒業間際に講座の同期と先生のお宅にお邪魔して遅い時間まで騒いだことがありました。その際先生からご自身の人生観を披露してくださいました。「上を見ればきりが無い。人生中くらいでいいんだよ。中庸がいいんだ」と。これは賢治の「雨ニモ負ケズ」の、締めの部分にある「ミンナニデクノボートヨバレ、ホメラレモセズ、クニモサレズ、サウイウモノニワタシハナリタイ」の一節と重なるものと私は解釈しており、盛岡の生活で得た私の人生観です。

公務員人生と大震災

就職した市役所は、基本事務屋や土木屋の職場ばかりですが、幸い本市はガス事業、地下鉄事業など電気職の活動の場が多い特殊な政令市でした。役所は大学で学んだ難しい知識は必要なく手紙を書く能力と四則演算、電気の知識はオームの法則だけあれば仕事らしいことが出来ました。しかし三十半ばくらいの時には、もっと専門知識を生かした仕事につくべきではなかったかとか、電気メーカーに進んでいれば面白い研究開発に携われたのではないかと後悔の念もありました。大学の同期が電機メーカーで活躍している話を聞くと「友がみなわれよりえらく見ゆる日よ、花を買い来て妻としたしむ」の気分になった時期もありました。

こんな時先生の言葉が脳裏に浮かび人生の壁を乗り越えた気がします。先生からいただいた「中庸がいいんだ」という言葉は、いつしか自分の座右の銘として東日本大震災の時も支えとなりました。ありがとうございます。

・・・志田先生への感謝のことばに代えて

略歴）宮城県出身、1976年一関高専を経て電気工学科入学、電力応用講座で先生の指導をいただき1980年（電気28回卒）卒業、1980年仙台市役所入庁、地下鉄建設、運営に従事し、地下鉄全体の技術部門統括を務める。（技術士：電気電子、機械、総合監理）

電気電子通信コースの近況

システム創成工学科

電気電子通信コース長 本 間 尚 樹

電気電子情報科会会員の皆様におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。平素よりコースの運営にご理解とご協力を賜り、心より感謝と御礼を申し上げます。

電気電子通信コースでは、今年度4月には、70名の学部生、2名の編入学生、30名の修士課程学生、3名の博士課程学生を新たに迎えることができました。スタッフの体制に変化はありませんが、現在本コースは、教授7名、准教授6名、助教4名の17名で教育および研究活動を行っております。

今年度は新型コロナウイルスの発生により、日本中が大きく変わってしまった過去にない大変な1年だったと思います。当コースも例外ではありませんでした。7月まで岩手県では何とか感染者0で食い止めてまいりましたが、本学の前期の講義は全てがオンラインとなり、学生実験もオンラインでの実演という形を取らざるを得ませんでした。研究室はオンラインという訳には参りませんでしたので、密を避けるために発表会などは研究室ごとに入れ替えながら実施するなどの対応を致しました。また、3年生を対象として毎年実施している工場見学（関東方面）は中止となり、恒例のソフトボール大会も中止となってしまいました。やはり、人と人が向かい合ってコースならではの学習・体験を与える機会が奪われてしまったことは大変残念でした。後期からは対面授業が再開され、1年生にとっては初めて同級生と一緒に学ぶことができるようになりました。幸いにも、1月時点では全学および当コースでは感染の事例が発生しておりません。このまま学生および教職員が無事教育・研究を継続できることを祈るばかりです。

明るいニュースとして、文部科学省の「世界

で活躍できる研究者戦略育成事業」として、東北大学が中心となって進めている「学際融合グローバル研究者育成東北イニシアティブ、Tohoku Initiative for Fostering Global Researchers for Interdisciplinary Sciences (TI-FRIS)」が採択され、当コースから、高橋克幸准教授、村田健太郎助教の2名が育成対象者として採用されました。東北地域から東北大学を含めて合計15名の採用がありましたが、岩手大学から採用になったのはこの2名だけであり、コースとしては大変喜ばしいニュースでございました。なお、このプロジェクトでは数年間にわたって国際性・学際性・社会性を養うべく国内外の組織との研究交流の支援を受けることが可能で、若手研究者が様々なテーマに挑戦し成果を創造することが期待されています。

進路関連の話題といたしまして、大学院進学率は他大学を含めて約5割となり、例年に比べて少なめとなりました。就職についても一部で苦戦しているという話も聞こえてきましたが、最終的には概ね例年通りで、電力、電機、通信など、幅広い分野に就職先が決まっております。また、県内の工場見学については、ケミコン岩手東日本(株)様、(株)デンソー岩手様、大井電気(株)様にはこのような状況下にも関わらずお受入れいただき、当コースの多くの3年生が参加いたしました。これもひとえに電気電子情報科会の先輩方の温かいお力添えの賜物であると思います、皆様方には心より感謝申し上げます。

最後になりますが、教職員一同、魅力ある大学、コースになるよう引き続き努力していく所存です。今後とも、本電気電子通信コースの教育・研究活動等に、ご理解とご協力並びに会員の皆様の変わらぬご支援をお願い申し上げます。

知能・メディア情報コースの近況

システム創成工学科

知能・メディア情報コース長 萩原 義裕

電気電子情報科会会員の皆様には、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます、と例年は始めるところですが、ご存知のように新型コロナこと COVID-19 の影響は少なからずの令和2年度でございます。昨年度の卒業式が自粛となり、年度初頭では対応の方針すら定めることができず、学年歴が大幅に後ろずれしてのスタートになりました。約1か月遅れの5月7日に授業を開始しましたが、情報コースでは一切登校させずに、学生実験は延期、その他はネットミーティング形式・ビデオ視聴・資料をダウンロードして自習という3種類の方式を併用しました。1か月遅れの開始を余儀なくされたのは、学生の視聴環境構築と教員の準備に時間をかけざるを得なかったためです。その間、および授業開始当初は、学生の不安は大きかったと思います。学生が知りえる情報は、ホームページとコースからのメールのみで、「未定」としか示せない状況でありました。私はコース長として、大学の方針検討の状況など、可能な限り情報提供に努め、学生の視聴環境把握を行う傍ら、過度な不安を解消すべく心配しないでよいということを呼びかけました。

学生の視聴環境は様々で、ネットミーティング形式の授業はトラブルも多発しましたが、学生側もある程度理解を示してくれて、さらに、接続状況が悪いことをチャット（文字通信）でリアルタイムに報告してくれるなど、自発的な行動を積極的に示してくれる学生も多数いて、私個人としては普段の授業よりむしろ一体感を感じさせられました。

専門科目は主にネットミーティング形式・ビデオ視聴とその併用で実施されました。特に数学などの基礎科目はビデオ視聴で繰り返し見ることができる効果もあり、学生には支持された科目が多くありました。プログラミング言語等の実習・演習に関しては、担当教員たちが工夫してネット越しに課題を解く環境を用意することができ、学生にとっては時間に追われること

なくじっくり取り組むことができました。とはいえ、コミュニケーションが粗になりがちで大学生としてのアイデンティティを持つことも危ぶまれる状況でしたのでネットミーティング形式の授業はそれを補完するという効果を持たせることができたのではと思います。

第1波が収まり、第2波は岩手に及ばなかったため、9月に学生実験を実施、10月からほぼすべて対面に戻りました。教員は多忙になりましたが、学生実験のみ対面としたコースや、学生実験もビデオ視聴としたコースと比べ、学生の負荷が少なく従来通りの効果も得られたのではないかと考えております。

幸いにして、情報コースでは COVID-19 の影響と思われる休退学者はなく、対面への移行もスムーズにできたと考えています。特に情報コースの学生はインターネット環境に慣れ親しんでいる学生が多かったかもしれませんが、教員・学生それぞれの危機意識が有効に働いたという面も少なからずあったと考えております。

就職年度の学生にとっては突然の求人状況の悪化に加え、面接のオンライン化で苦勞する学生が少なからずおりました。いや、執筆中の12月末の時点でも「おりました」と過去形にできない状況です。学生にとっては大変な状況は続いています。一方、企業様からはうまく人が集められないというお悩みも伺っております。経験を重ねればそういったミスマッチは減っていくのだとは思いますが、学生にとっては、「今」が一番重要ですので心配は尽きないところでございます。

吉森久准教授が今年度いっぱい退職となります。例年なら盛大に実施する退職記念講演会も、先が見えない状況で忸怩たる思いです。

今後、COVID-19 収束まで苦しい状況が続くとは考えますが、教職員一同、努力をして参りますので、会員の皆様には益々のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

草刈賞

第17回(令和元年度)草刈賞受賞者

草刈賞を受賞して



草刈賞を受賞してから一年が経とうとしています。伝統のある草刈賞を頂けたこと、大変光栄に思います。

私は大学入学時にワンダーフォーゲル部に所属し、3年間活動を続け、サークルの代表も務めました。そこでサークルをまとめること、サークルを運営することの大変さを知ることが出来ました。また4年次にはETロボコン2019にも参加し、地区大会で優勝、全国大会で総合4位という成績を取めました。プロジェクトに参加して作業を進めることで、プロジェクトマネジメント能力の重要性や目標を達成する喜びを

知能・メディア情報コース 赤石 譲

知ることが出来ました。どちらも学業だけではできない貴重な体験でした。

私は現在、岩手大学大学院に進学し、量子回路を関数から自動設計する研究を進めています。学部生時代の卒業研究よりもさらに専門的な研究内容となり、問題にぶつかることも多々ありますが、より深く物事を理解できるようになり、やりがいを感じています。また今年度からはETロボコンの実行委員として、以前参加していた大会をサポートする役割を担うこととなりました。これからも学業だけでなく様々なことに意欲的に参加することで、視野を広げたいと思っています。

最後にこれまで支えてくださった家族、先生、友人、周囲の皆様には感謝します。これからの生活がより充実したものになるよう、日々精進して参ります。

草刈賞を受賞して



私が草刈賞を受賞したのは昨年になりますが、伝統のある草刈賞を頂いたこと、大変光栄に思います。4年

間の大学生活を通して、学業だけではなくフットサルという競技に打ち込み、東北社会人フットサルリーグ2部北優勝、1部昇格を達成できたことは、大きな経験と自信になっているのだと強く思います。

フットサルの楽しさや魅力を岩手から発信する。所属しているフットサルチームを通して様々な活動にも参加しました。その中で得られたものは知識や技術など数多くありますが、何より仲間と共にフットサルに本気で打ち込めた

知能・メディア情報コース 福士 遼

時間は、かけがえのない財産です。本気で物事に取り組む面白さや大切さを社会人となった今だからこそ実感しています。

卒業後、私は県内の私立高校の数学の教員をしながら、部活動ではサッカーを教えています。県内でも実力のあるチームで、自分より上手な生徒ばかりです。その指導の中で、技術面はもちろんですが、特に部活動の大切さを伝えています。人生の中で、強い気持ちを持って打ち込めるものがあることは幸せなのだと。そして、何かに熱中し、本気になって頑張ったことは、その時は実にならなくとも、将来、必ずどこかで「自信」という形で役に立つのだと。今だからこそ伝えられることを大切にしていきたいと思っています。

最後に大学生活を支えてくださった家族、先生、後輩、友人へ感謝し、今後の生活を送りたいと思っています。

草刈賞を受賞して



草刈賞の受賞から1年が経とうとしています。伝統ある草刈賞を頂き、大変光栄に思います。4年間の大学

生活を通して、留学や英検1級取得、学内カンパニー活動、国際学会発表など、様々な経験をさせて頂きました。特に、2年次から参加した学内カンパニー“iFive”では、成果発表会で2度の最優秀賞、また大船渡のビジコンでグランプリを頂くなど、仲間と共に様々な形で成果を残せたことを嬉しく思います。どの活動も、周りの仲間や先生方、そして家族の支えがあり実現したものです。深く感謝します。

私は今年度から筑波大学院の落合陽一先生の研究室に進学しました。この原稿の執筆現在は進学して半年ほどが経ちますが、ようやく新天地での生活にも慣れてきたように思います。自

知能・メディア情報コース 吉田 望

らの浅学を痛感する機会も少なくないですが、恵まれた環境の中、好きなこと・心躍ることを研究を通して追求できるのは幸せなことです。

学部時代に松山克胤先生のもとで卒業研究に取り組んでいた時も、本当に楽しく快適な研究環境を整備して頂きました。私が趣味のギターをテーマにした研究案を提案した際も、先生は私を尊重し、寛大に受け止め、研究として仕上げる過程を多岐にわたりサポートしてくださりました。結果として学部生ながら国際会議で論文2編を発表することができましたが、内的モチベーションを尊重する松山研での研究生活が、研究の楽しさを教えてくれたおかげだと思えます。

ドイツの詩人シラーが残した言葉に、「青春の夢に忠実であれ」という言葉があります。様々な事情があるかとは思いますが、後輩の皆さんも、青春の夢（=あなたが真に実現したい目標や心躍ること）を大切に、その夢に向かい邁進して頂ければと思います。

草刈賞を受賞して



私が草刈賞を受賞してから一年が経とうとしています。伝統ある草刈賞を頂き、大変光栄に思います。

私は大学では学業に励みつつ

様々なチーム開発に携わり、技術の研鑽をしてきました。1年次の頃から学内カンパニーに参加し現在もアプリ開発を行っています。2年次ではenPiTや超人スポーツなどの課外活動に参加しチーム開発の基礎知識を学び実践しました。開発を通して身に着けた技術や経験のみならず、開発をともしたチームメンバーとの縁は今で

知能・メディア情報コース 中村海音

も大切にしています。3年次ではそれらの活動が続けつつ早期卒業に向けて授業及び研究に注力しました。早期卒業制度を用いて3年で大学を卒業しましたが短くも充実した3年間でした。

私は現在岩手大学大学院に進学し、学部時代に参加していた活動を今も継続して続けています。学内カンパニーでは副代表を務めるようになりチームマネジメントについても学びました。様々なことに挑戦することは苦勞も伴いましたが、貴重な経験を積むことができました。ぜひ後輩の皆さんもためらわず挑戦し、有意義な大学生活を送ってほしいと思います。

最後になりますが、現在そしてこれまで支えてくださった家族、先生、友人たちに感謝し、今後も様々なことに挑戦していこうと思います。



支部だより



令和2年度東京支部報告

東京支部長 狩野利之(昭和61年電子卒)

令和2年度の東京支部大会は、一祐会総会が東京で開催されるというはじめての企画を受けて、他学科の東京支部総会とも合同で開催すべく準備を進めておりました(令和2年5月16日東京・八重洲の予定でした)。

しかし、令和2年の年明け後まもなく新型コロナウイルス(COVID-19)が急速に感染拡大し、緊急事態宣言も発出され、いわゆるコロナ禍のために中止ということになりました。

コロナ禍は、第2波、第3波となかなか衰える気配を見せず、同窓会の行事はことごとく中止となり年末を迎えましたが、ここで前東京支部副支部長の柴田隆昭様(昭和37年電気卒)から科会の会合をリモート形式で何かできないか、とのご提案をいただきました。早速、東京支部会計監査の飛世政和様(昭和44年電気卒)から、コロナ禍の中でのリモートワークを支える代表的なツールであるZOOM(ズーム)を利用して新年早々に賀詞交歓会開催を、との企画が上がり、速攻東京支部役員会で実施の意思統一ができてきて、

・令和3年1月17日(日)13時～15時

ということで開催の運びとなりました。

例年ですと東京支部大会のご案内は、郵送で約900名の会員の方々にお送りしていますが、今回はメールアドレスをお知らせいただいている約300名の皆様にメールをお送りしました。

賀詞交歓会は、総勢45名のご出席をいただ

いて行われました。科会相談役の太田原功先生(昭和30年電気卒)は当日急遽ご欠席となってしまいましたが、盛岡から科会副会長の柳橋好子様(昭和45年電子卒)、仙台から元仙台支部長の齋藤健様(昭和38年電気卒)の参加をいただき盛大に行われました。

ZOOMの利用は初めての方も多くおられましたが、飛世様の手厚いサポートにより接続いただけ、また使い慣れている方は、ご自身の背景を工夫されての参加となりました。

会は、副支部長の中山靖茂様(平成4年電気卒)の開会宣言、同じく副支部長の内藤千寿様(平成6年電子卒)のZOOMの注意事項で始まり、スペシャルメニューとして、昨年無事に帰還を果たした“はやぶさ2”のレーザー距離計の開発に携わられた加瀬貞二様(平成4年電子卒)から開発の苦労話などを講演いただきました。それから参加の皆様全員からのスピーチへと進み、最後に学生歌を歌い、参加最年少の内藤裕貴様(平成24年修了)の中締めとなりました。

リモート形式での開催は、制約がありますが、なかなか会場に來られない方々やはじめて科会の会合に参加いただけた方、また永田稔様(平成5年電気卒)には駐在先のミャンマーから参加もいただきました。皆様ご参加、誠にありがとうございました。

一日も早いコロナ禍の終息を願い、会員の皆様がつながる場を今後も設定していきたいと存じます。



リモートによる令和3年1月の東京支部賀詞交歓会

令和2年度仙台支部報告

仙台支部長 田中利光(昭和53年電気卒)

1 新型コロナウイルス

今年(令和2年)、年が明けたばかりの1月に世界保健機関(以下、WHO)が中国・武漢での新型コロナウイルス(以下、コロナ)の確認を明らかにしましたが、「今のところ大規模に感染が広がっている状況ではない」としていました。私達門外漢はWHOがそう言うなら大したことにはならないのだろうと考えていましたが、その後状況は大きく変化することとなります。

1月中旬に日本国内でも感染者が確認され、中国において武漢以外の場所でも感染が確認されたにもかかわらず、WHOは「ヒトからヒトへの感染が見られる」ものの「国際的な緊急事態にはあたらない」としていましたが、その後1週間も経たない1月末にWHOは「国際的な緊急事態」を宣言することとなります。

2月に入って乗客の感染が確認されたクルーズ船が横浜港に入港し、マスクを賑わわせたことはご記憶に新しいことと思います。その後、国内での感染者数は増え、三密回避、外出自粛、学校休校、テレワーク、飲食店などの営業自粛や営業時間短縮など様々な影響を及ぼし始め、私達の生活様式がガラリ変わってしまう出来事となってしまいました。そして令和2年開催予定のオリンピック、パラリンピックが1年延期となってしまいました。

その後、国内では春に感染の第1波、夏に第2波があり、そして今まだ感染の拡がりや止まず、感染者数は約22万人となり第3波に突入してしまいました。このとき世界の感染者数はすでに8,100万人となっていました。このようななか、ようやくワクチン接種の動きも始まり、国内では令和3年2月下旬から順次接種を進めていくこととなったようです。(令和2年12月下旬時点)

このように、令和2年はコロナで始まり、コロナで終わろうとしている一年だったのではないのでしょうか。このことは同窓会活動にも大きく影響を及ぼしました。

2 令和2年度の活動(6月～)

(1) 6月に本部総会が仙台で開催されることになっていたため、仙台支部総会はそれに併せて開催する予定でした。しかしながら、コロナの感染防止を優先し、本部総会は秋に延期、盛岡市で単独開催されることとなりました。これに伴い、当支部総会は緊急的措置として集会方式を取り止め、役員一任によるメール方式で6月に開催されました。したがって、従来行われていた講演会、懇親会も全て中止となりました。

総会では、令和元年度事業報告、令和元年度決算報告及び会計監査報告、令和2年度事業計画、令和2年度予算、役員改選についてすべて承認されました。

新役員については以下のとおりとなりました(敬称略)。

支部長 田中利光(昭和53年電気卒)
副支部長 田代良二(昭和55年電気卒)
副支部長 菅野丘(昭和63年情報卒)
監事 横井哲夫(昭和43年電気卒)
監事 菅原利一(昭和55年電気卒)
理事 千葉浩克(昭和40年電気卒)
理事 加藤雅和(昭和49年電子卒)
理事 熊田克俊(昭和51年電気卒)
理事 大竹俊(平成6年情報卒)
理事 柏葉安宏(平成9年電気電子卒)
理事 戸羽幸江(平成12年電気電子卒)

(2) 今年度の事業計画では、令和3年1月に新年会を、4月に長寿者を祝う会を行う予定でしたが、12月に開催されたメール方式での役員会において、昨今のコロナの感染が収まらない状況を踏まえて止む無く中止することとなりました。

コロナ禍は、この同窓会活動にまで負の影を落とすつつあります。本来の同窓会の目的である会員相互の親睦が、このコロナ禍で全く機能しなくなってしまいました。先輩や友と顔を合わせ、懐かしい昔を語り合い、情報交換を行う、といったことができなくなってしまったのです。早くこのコロナ禍が収束し元のような同窓会活動ができるようになることを切に願っております。

令和 2 年度盛岡支部報告

盛岡支部長 宮 手 敏 雄（昭和 44 年電気卒）

盛岡支部は予定していた秋の「事業所見学会」と、1月30日開催に向けて準備していた「科会新年会」を新型コロナ感染県内拡大のため、残念ですが中止しました。

支部会則にはありませんが慣例により支部総会は、本部総会を東京や仙台で開催する年度は、翌年の盛岡開催時に2年分をまとめて審議することになっています。今年度科会総会は仙台の予定でしたが、コロナ禍のため開催を断念しました。総会に代わる理事会が盛岡市内で10月3日（土）に開かれ、その場を借りて盛岡支部総会も開催しました。

支部総会の議案は次の通りです

1. 令和元年度 事業報告
2. 令和元年度 決算並びに会計監査報告
3. 令和2年度 事業計画
4. 令和2年度 予算
5. 令和2年度 支部役員を選出

全議案とも満場一致で承認されました。

▼岩手県内の新型コロナ感染状況

令和2年2月27日、突然出された“全国一斉”の休校要請により、県内の小・中・高・大学などは対応に追われました。その後、新型コロナウイルス感染は大都市圏から全国に拡大する中、県内は唯一感染ゼロが続き「岩手の奇跡」とも言われました。

しかし、5か月後の7月29日に県内初の感染陽性者を確認、盛岡市在住の男性で関東地方から戻った直後です。その後、県内各地でも陽性が確認されました。お盆帰省で県境をまたぐ移動と、会食があったためか8月後半に若干増えましたが、10月までの累計は27人と少数で

推移しました。

ところが11月に入ると状況が一変して感染が急増しました。盛岡市内繁華街にある複数の飲食店でクラスターが発生、感染は多くの客と従業員に広まり県内各地にも拡大、11月1か月で感染者は177人に達しました。

12月には複数の総合病院で医療従事者と患者の陽性が確認されました。介護施設を併設した雫石町内の病院では患者と医療従事者を合わせ、計110人を超すクラスターが発生しています。

12月末現在で累計感染者は389人、県内感染者の急増とともに気掛かりなのは死亡者数24人が東北6県で最多、陽性者に対する死亡率5.8%は全国でトップです。医療機関と介護施設のクラスターも一因と思われます。

会誌「きたかみ67号」がお手元に届く頃にはウイルスが収束に向かい、科会諸行事が安全に再開できることを願っています。くれぐれもご自愛ください。



例年の正月三が日は買い物客で賑やかな盛岡市大通商店街でしたが、今年是人通りが少なく閑散とし、余計に寒さが身に染みしました＝1月3日（日）午後2時撮影

印象深かった先生方

升 谷 堯 (昭和45年電子卒)



(1) 統計学、石川栄助教授

最初の講義で「助教授ではなく教授です」と言って笑わせた。教科書はご自分で書いたもの。B5版で読み易く、装丁も簡易で価格を抑えた配慮が伺えた。内容は他の大学教授の書かれた本より優れていた

のではなかろうか？

岩手大学^(※)に「お茶くみ」として入り、勉強して教授になったとか。国外の学者と英文で学術上の議論を交わすそうで、すごいと思った。

(2) 工業数学、鍋谷堅次郎教授

姿が異様だった。黒背広にネクタイを締め、五分刈り坊主頭。講義中にタイが邪魔になるらしく緩め、手に付いたチョークの白粉を背広の裾で拭うから、帰りはまだらになる。昼に食堂でラーメンを注文して眼前に器を置き、両手で抱え込んで汁をすすってから「ガバッ」と食べ始める。数学者は「理論以外には無頓着」だと聞いたが、逆に感心してしまいました。

(3) 高電圧工学、佐藤淳教授

ある時「皆さんは宗教を馬鹿にするでしょうが、工学と神様は矛盾しません」と言われた。どなたの講義か忘れたが、「エントロピー増大の法則」を教わった。卒業後に「動植物の生命活動はそれと逆行するのでは？」と気付いた。佐藤先生に質問したら何と答えて下さるだろうか？「人間は神の摂理の一部しか知らない。全く矛盾しません」と、言われるような気がする。

(4) 佐藤利三郎先生と太田原先生

研究室は三輪忍先生だったが途中で宇都宮大学に転出されたので、太田原先生が監督し、実務は久保田先生のお世話になった。

当時は太田原先生の研究分野の数百MHz級分布定数論や四端子網とかは、あまりに周波数が高すぎて、何の応用分野があるのだろうと不思議に思った。しかし今では、 μ CPUの内部は超高密度の集積回路で構成され、GHz級のクロックサイクルで動作している。真空管回路の時代から既に先を見据え、太田原先生に研究課題を勧めた佐藤利三郎先生の先見の明に驚かされると共に、当時は未知であったろう分野に踏み込んだ太田原先生にも、今頃になってすごいと気付く。多分、学生が知らないだけで、他の研究室の先生方も、同じように先を見た研究をなさっていたのでしょう。

利三郎先生（東北大学工学部教授）の特別講義を一度だけ受けた。「電流は電線の中を横に流れるのではなく、縦に流れると考えるのが正しい」と、電磁気学の数式を用いて学生達を煙に巻いた。後ろに電気系の先生方がおられた。

三輪教授が直立不動で司会した。三輪先生は防衛庁の研究職出身で、中佐で退官したとか。背が高く、おっかない容貌をしていたが、学生には気さくで優しい方でした。

卒業後の思い出

恥ずかしながら卒業後の記憶の一部を記します。都合の悪い事は省略です、お笑い下さい。

学生時代はアマ無線とバイクとダンパに熱中して成績は下がりっぱなし。卒研は全力を出したが、振り返ればお遊びレベル。指導を受けた久保田先生と高橋勝彦電算室技官に感謝です。卒業時には太田原先生のご自宅で、研究室の学生が奥様の手料理をご馳走になりました。

同年春、花巻市の新興製作所に入社し、研究所に配属。トランジスタからIC⇒LSI⇒

μCPUへと移り変わった時代で、同世代には西和彦、孫正義、ビルゲイツがいた。岩手大学を最低の成績で卒業しても、県内民間企業ではエリートと見なされる。電子通信学会と情報処理学会に入会させて頂き、訳も分からず論文誌のページをめくり、夜9時過ぎまで実験室に居座った。やる気のある者にはやらせておけ、という研究所長の配慮を後から知った。

少ないながらも給料を貰って勉強するのが楽しかったし、外で遊ぶ金もなかった。情報処理学会誌に載った「情報回路論(1)」なる新バージョンがとても役立った。製造業では図面指示で現場が動く。恥は何度もかいたが、先輩がカバーしてくれた。中小企業では失敗した者を首にしていたら誰も居なくなる。部下は辛抱づよく育てなければならぬと気が付いたのは、後々の事。

所長が米国の動向変化に気付き、ワイヤドットプリンタの開発研究に舵を切った。まだ活字プリンタが主流の時代でした。私は漢字機の符号変換部を設計した後、ANK機の回路設計に移った。メカ担当にはパルスモータとタイミングベルトの組合せを提言し、NEC製のμCPU8080(2MHz)試作サンプルを取り寄せて試験回路を組み、テストした。プリンタ内部制御へのCPU採用は高価で論外だったが、若気の至りで「将来はこの方式が普通になる」と主張した。岩大電気科先輩の加納実課長だけが理解して、他からの非難を全てガードしてくれた。

基本回路を、盛工卒の優秀な若手に引き継ぎ、私はFW設計に移った。入力と出力を決め、後は全てプログラムで制御する。多重割込み処理を、ステップ時間を計算しながら設計したがギリギリであった。何とかANK全文字を自動往復印字させる実験機を作った。

その内に営業がWM用ワイヤドットプリンタユニット2千台を受注し、直ちに製品設計開始となった。当時の私はフローチャートの書き方も知らずに、一人でプログラミングしていて、頭は限界に近づいていた。時間は容赦なく過ぎてゆく。まずいと判断した上層部が、東京支社

のソフト経験者数名を応援によこした。チーフに今までの経過を説明したところ、「メカのハンチングを、動作パラメータを切り換えて、細かく抑制制御している」と、驚かれた。

本来であれば「駆動系の応答特性」を、理論的に確認してから設計方針を決めるべきだが、自動制御講義をろくに理解しないで卒業した私には、残念ながら出来なかった。何年か前の科会懇親会で、「就職した直後にもっと勉強しておけばと後悔した」と話した所、篠福先生に大笑いされてしまった。「出来るはずだ」と言う直観だけで設計し、後は実験で補正した。私と応援部隊が半年間、納入先工場の倉庫に缶詰になって完成させた。若さと無謀で突き進んだ私の初めての製品設計体験でした。

やがて通信回線が開放され、端末の需要が増えると大手企業が参入し始め、独立系の中小企業はしだいに苦しくなる。優秀な中核が辞めてゆき、次に見どころのある若手が居なくなる。職位が上がるにつれ、次第に技術的内容が減り、人の管理や対外折衝が中心になる。私には向かないと分かっていた。頑張りたかったが力尽き、54歳で退職した。土方をしてでも家族を守るという意気込みはあったが、リーマンショックが始まった時期で、再就職を求める人達が職安に殺到していた。失業手当を頂戴し、ハローワーク経由で再就職した。この間、成績不振の息子に「国立大学でなければ就職だ」と宣言した所、尻に火が付いて何とか潜り込んでくれた。育英会も市の奨学金も通った。何しろ親が失業中なのだ(笑)。家内には感謝。親が不甲斐ないと、子供達は自分で何とかする。その後、娘も息子も伴侶を見つけて、さっさと結婚してくれた。今では共に一姫二太郎です。

[終りに] Japan as NO.1の時代が過ぎ、リーマンショックを経て今に至るが、技術変遷の波を乗り越えて行かねばなりません。私より苦勞した方、俺の方がましと思われた方、色々とおられるでしょう。七転び八起き、頑張り日本！(※は水沢緯度観測所との指摘あり、升谷様了解済—宮手記)

私の勤めている会社について

大羽澤 仁 志（平成2年電気卒）



皆さんは時計に興味をお持ちでしょうか？ネックレスやピアスなどできない私にとっては、腕時計は唯一身に着けることができるアクセサリと言ってもいいかもしれません。若い方々はそうでも

ないと思われるかもしれませんが、そう思う男性は多いと思います。その腕時計の中で、フォーマルな場面でも、カジュアルな場面でも、しっくりくるデザインのグランドセイコーを想像された方がいたら幸いです。

グランドセイコーはデザインだけでなく、世界最高峰と言われる技術、精度を兼ね備えた機械式腕時計でもあります。私が勤務している盛岡セイコー工業株式会社（盛岡セイコー）は、グランドセイコーをはじめとする機械式腕時計を、部品製造から完成品の組立まで一貫生産を行っています。また市場を代表するクォーツウオッチ用駆動体の製造も行っている会社です。

盛岡セイコーは岩手県誘致企業第1号として1970年に設立しました。本年おかげさまをもちまして創立50周年を迎えることができました。50周年の記念行事を催してきましたが、コロナ禍のため一部行事を延期しております。

また、7月20日に、グランドセイコーを世界に向けて発信する「グランドセイコースタジオ 雫石」をオープンしました。このスタジオはグランドセイコーの機械式腕時計を製造する施設であり、2020年東京オリンピック、パラリンピックの主会場になる新国立競技場の設計を手掛けた隈研吾さんがデザインした施設です。



木をふんだんに使用した製造施設とは思えない美しい建物が魅力になっています。

「グランドセイコースタジオ 雫石」は、予約受付にて、沢山の一般の方々に見学頂ける施設ですが、現在は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、一般公開を見合わせております。予約受付の開始時期につきましては、グランドセイコー公式 Web サイトにて改めてご案内します。

盛岡セイコーの魅力として、敷地の約3割が緑地で、1000本近い自然林を有する会社です。自然との共生を図り、生物多様性に配慮した緑地づくりに取り組んでおり、その取り組みについて評価して頂き、2015年に「いきもの共生事業所認証（通称 ABINC）制度」で工場版としては第一号となる認証を取得しています。また、持続可能なものづくりを追及した様々な取り組みを行っています。

時計の話をしてきて話は変わりますが、私自身の仕事は、時計以外の仕事をしています。無線センサーネットワーク機器「ミスター省エネ」の設計、製造を担当しています。時計とは無縁な感じを受けた方がいらっしゃるかもしれませんが、「ミスター省エネ」は時計で培われた技術から生まれました。時計の技術が脈々と受け継がれ、進化したものです。

機械式腕時計、クォーツウオッチも同様に、脈々と、機能や人々の技術が受け継がれています。その技術を受け継ぎ、次に継承できる。それを感じることができたことは、エンジニアとして誇らしいことだと思っています。

盛岡セイコーに在籍している岩手大学 OB/OG は 42 名。設計、技術、製造、経理等、幅広いジャンルで活躍しています。

内訳：工学 / 理工学部 38 名（内電気系 9 名）、農学部 2 名、人文社会学部 2 名

盛岡セイコーは、国内外の製造拠点の中核として重要な役割を担う会社であり、ものづくりに興味のある学生の皆さんの入社を期待しています。

盛岡近郊フルーツ巡り

立花 龍一（昭和61年情報卒）



私は大学卒業以来35年間岩手で暮らしています。青森県の出身ではありますが、岩手で家庭を築き、岩手に本籍を移し、すっかり岩手県人になりました。そんな私が最近魅せられている盛岡近郊のフルーツについてご紹介します。

まずはさくらんぼ。盛岡市内、盛岡赤十字病院の裏手に私が通うさくらんぼ農園があります。さくらんぼ狩りができますが販売もしています。当然採りたて新鮮です。悲しいことに、さくらんぼの季節は6月中旬から1か月しかありません。小夏、花駒、紅ゆたか、佐藤錦、紅秀峰…、1か月のうちに店頭には並ぶ品種がめまぐるしく変わるので毎週通います。うまく当たれば1シーズンで20種類もの品種を味わえるので、土曜日行って日曜日も行きます。一般にさくらんぼは高額なイメージですがそこは農園。訳あり品が出れば格安に売ってくれるので、選果が済んだ時間を狙って訪問します。運が良ければ安く購入できます。初夏のさわやかな、さくらんぼ。梅雨明け前の至福のひと時です。

次はぶどう。さんさ踊りが終わってお盆を過ぎると、ぶどうの季節です。8月末から紫波、大迫方面の産直に向かいます。経験上、シーズン最初の9月中旬までは店頭には並ぶ品種が豊富です。サニールージュ、ハニーシードレス、アーリースチューベン、キャンベル、ナイヤガラ…、ぶどうの品種もきりがありません。週末産直に通いながら品種の移り変わりを楽しみます。8月には桃の横にぶどうが並びます。夏から秋への選手交代です。甘いぶどうを頬張りながら暑かった夏をしのび、秋を迎えます。(耳より情報:

紫波町の赤沢産直にあるぶどうのソフトクリームは絶品!一度ご賞味ください)

次は洋なし。9月末になると出番です。旧都南村手代森に洋なしを作っている農家があります。行けば自宅横で販売しており安く買えます。値段はおじさんの気分次第です。オーロラ、バラード、ルレクチュエ…、普段あまり見ない品種がたくさんあります。和梨はシャキッとした食感でおいしいですが、洋なしの柔らかな食感もなかなかです。唯一の問題が「追熟」。洋なしは食べ頃の少し前で売られているので、家での追熟が必要です。これが難しい。室温追熟が基本だと農園のおじさんに教わりましたが、食べごろを見切るのは至難の業です。早いと固いし、遅いと柔らかすぎるし。今日食べるか、明日にするか、家人と悩みながらXデーを慎重に定めます。少しどきどきしながら皮をむいて口に運びます。食べごろを引き当てたときは、思わずにんまり。

最後はりんご。9月からはりんごの季節でもあります。最近りんご農園に通う楽しみを覚えました。旧都南村大ヶ生の観光りんご園です。農園で買うりんごは鮮度抜群!果汁が多くて普段買うのと全くの別もので、うまい!の一言です。こうこう、こうとく、王林、サンふじ、品種がたくさんです。こうとくは幻のりんごと言われている品種なのだそう。ここでも訳あり品を狙って買います。農園が営業を終えるころ岩手は冬を迎えます。

このように盛岡近郊にはおいしいフルーツがたくさんあります。北上山地の豊かな恵みはまさに魅力的です。みなさん、老後は盛岡で過ごしませんか?

令和2年度岩手大学電気電子情報科会総会

岩手大学電気電子情報科会 令和2年度総会は、6月27日に仙台市ハーネル仙台で開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、延期となりました。

仙台の皆様にもご苦勞をおかけし、総会ができないというのは初めてのことであり、残念ではありませんでした。

その後、検討を重ねた結果、10月3日(土)に盛岡で臨時理事会を開催し、総会を兼ねることとなりました。

長らく感染者ゼロだった岩手県でも、少しずつ出始めていたので、感染予防をしながら市内の理事・相談役・会計監査12人が集まり臨時理事会(兼総会)を開催しました。

[議事録]

臨時理事会 兼 令和2年度総会

日時 令和2年10月3日(土)

12:00～13:00

場所 エスポワールいわて

出席 12人

会長あいさつ

会長が議長を務め、審議に入る。

○第1号議案について

事務局より、下記の令和元年度事業5件について報告がなされた。

1. きたかみ66号の発行
2. ホームページ運営委員会の活動
3. 正会員歓迎会
開催予定であったが新型コロナウイルス感染症拡大防止のために中止
4. 草刈賞委員会の活動
第17回4人受賞
5. 会費検討委員会の活動
拍手により異議なく承認された。

○第2号議案について

事務局より令和元年度決算の説明があり、続いて佐々木会計監査より監査報告が行われ、特に異議なく拍手で承認された。

○第3号議案について

事務局より、令和2年度事業計画案(きたかみ67号発行、正会員歓迎会開催、草刈賞委員会の活動、会費検討委員会の活動)について説明があり。

拍手により異議なく承認された。

○第4号議案について

事務局より令和2年度予算案の説明があり、特に異議なく拍手により承認された。

○第5号議案 役員の選任については

事務局より、令和2年度3年度役員(案)が提案され、異議なく承認された。

退任は

理事	國保章子氏
理事・仙台支部長	数藤 崇氏
盛岡支部幹事	鈴木 順氏
仙台支部幹事	田中利光氏

新任は

理事	大羽澤仁志氏
理事・仙台支部長	田中利光氏
仙台支部幹事	菅野 丘氏

令和2年度3年度岩手大学電気電子情報科会役員名簿

(令和3年1月1日現在)

役職名	氏名	卒業(卒回)	役職名	氏名	卒業(卒回)
会長	久保田 賢 二	S 42 (気 15)	東京支部		
副会長	恒 川 佳 隆	S 55 (気 28)	幹 事	薄 衣 文 雄	S 41 (気 14)
副会長・事務局	柳 橋 好 子	S 45 (子 1)	幹 事	小 磯 巖 男	S 51 (気 24)
副 会 長	立 花 龍 一	S 61 (情 8)	幹 事	畠 山 主	S 54 (情 1)
理 事	小野寺 瑞 穂	S 29 (気 2)	幹 事	吉 澤 和 弘	S 54 (情 1)
理 事	佐 藤 匡	S 40 (気 13)	幹 事	畠 山 寧	S 59 (子 15)
理 事	吉 田 英 夫	S 41 (気 14)	幹 事	田 口 之 博	S 61 (子 17)
理 事	武 田 寿 郎	S 41 (気 14)	幹 事	山 道 隆 男	S 62 (気 35)
理 事	千 葉 則 茂	S 50 (気 23)	幹 事	富 塚 秀 樹	H02 (気 38)
理 事	鳥谷部 達 雄	S 56 (情 3)	幹 事	中 山 靖 茂	H04 (気 40)
理 事	伊 東 寿 枝	H01 (子 20)	幹 事	遠 藤 慎 介	H04 (子 23)
理 事	村 田 崇	H02 (気 38)	幹 事	三 浦 友 規	H16(電電院)
理 事	大羽澤 仁 志	H02 (気 38)	盛岡支部		
理事・盛岡支部長	宮 手 敏 雄	S 44 (気 17)	幹 事	岡 英 夫	S 48 (子院 4)
理事・仙台支部長	田 中 利 光	S 53 (気 26)	幹 事	池 内 達	S 50 (子 6)
理事・東京支部長	狩 野 利 之	S 61 (子 17)	幹 事	佐 藤 信	S 57 (子 13)
理事・事務局	長 田 洋	S 62 (気 35)	幹 事	佐 藤 文 昭	S 59 (子 15)
理事・事務局	木 村 彰 男	H03 (情 13)	幹 事	泉 澤 栄	S 60 (子 16)
会 計 監 査	大 坊 真 洋	H11(電情博)	幹 事	高 橋 康 浩	S 62 (気 35)
会 計 監 査	佐々木 眞 嗣	S 62 (子 18)	幹 事	伊 東 寿 勝	H01 (気 37)
顧 問	佐々木 經 夫	特	幹 事	千 葉 幸 二	H04 (情 14)
顧 問	藤 原 民 也	特	幹 事	金 澤 博 昌	H06 (情 16)
相談役(元会長)	阿 部 長 一	S 19 (専 4)	仙台支部		
相談役(元会長)	山 崎 時 男	S 24 (専 8)	幹 事	千 葉 浩 克	S 40 (気 13)
相談役(元会長)	太田原 功	S 30 (気 3)	幹 事	菅 野 丘	S 63 (情 10)
相談役(元会長)	柏 葉 安兵衛	S 38 (気 11)	幹 事	菅 原 利 一	S 55 (気 28)
相談役(元会長)	籙 福 寛	S 38 (気 11)	幹 事	田 代 良 二	S 55 (気 28)
			幹 事	柏 葉 安 宏	H09 (電電2)

令和2年度電気電子通信コース、 知能・メディア情報コース教職員名簿

令和3年1月1日現在

電気電子通信コース (コース長 本間尚樹 教授)	
職 名	氏 名
教 授	長 田 洋
教 授	小 林 宏一郎
教 授	高 木 浩 一
教 授	恒 川 佳 隆
教 授	西 館 数 芽
教 授	本 間 尚 樹
教 授	向 川 政 治
准 教 授	叶 榮 彬
准 教 授	秋 山 雅 裕
准 教 授	菊 池 弘 昭
准 教 授	大 坊 真 洋
准 教 授	高 橋 克 幸
准 教 授	三 浦 健 司
助 教	阿 部 貴 美
助 教	岩 井 守 生
助 教	佐 藤 宏 明
助 教	田野崎 真 司
助 教	村 田 健太郎

知能・メディア情報コース (コース長 萩原義裕 教授)	
職 名	氏 名
教 授	今 野 晃 市
教 授	永 田 仁 史
教 授	西 山 清
教 授	萩 原 義 裕
教 授	藤 本 忠 博
教 授	山 中 克 久
准 教 授	明 石 卓 也
准 教 授	木 村 彰 男
准 教 授	張 建 偉
准 教 授	中 谷 直 司
准 教 授	松 山 克 胤
准 教 授	吉 森 久
講 師	平 山 貴 司
助 教	佐 藤 信
助 教	藤 岡 豊 太
助 教	盧 忻
事務補佐員	懸 田 ひかる

理工学系技術部

職 名	氏 名
第一技術室長	星 勝 徳
技術専門員	千 葉 寿
技術専門員	萩 原 由香里
技術専門職員	志 田 寛
技術専門職員	藤 原 歩
技術専門職員	古 館 守 通
技術職員	増 山 静 香
技術職員	平 山 有 沙
技術職員	太 田 康 治
技術職員	千 葉 茂 樹
技術職員	那須川 徳 博

情報技術部

職 名	氏 名
技術室長	栗 田 宏 明

創立80周年記念式典のご案内 (令和4年度総会当日に変更)

本会は、昭和17年（1942年）1月1日に盛岡高工電気科会として発会し、現在に至っており、令和4年（2022年）1月1日で丁度80周年の記念すべき日を迎えます。

これを記念致しまして、本会では令和4年度総会の当日に併せて、総会後に「岩手大学電気電子情報科会創立80周年記念式典」を執り行うべく計画しております（詳細は来年度発行の会誌「きたかみ」68号に掲載予定）。

会員各位におかれましては多数ご列席下さるよう、ここに前もってお知らせとご案内を申し上げます。

昨年発行の「きたかみ66号」では、令和3年度総会当日に開催予定と案内致しましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から1年延期し、80年を迎えた年の総会に併せてと変更致しました。ご了解いただきましてご協力下さるようお願い致します。

令和2年年表

1/15	理事会・新年会打合せ、「きたかみ」66号第3回編集委員会、令和元年度第2回会費検討委員会 久保田会長・柏葉相談役・立花副会長・宮手盛岡支部長・長田理事・木村理事・柳橋理事 理工学部地域連携センター
1/24	電気電子工学専門研修 「データセンターに関わる技術動向」川口晋氏（㈱NTT ファシリティーズ）
1/25	令和元年度第3回理事会 15人 エスポワールいわて小会議室
1/25	盛岡支部主催科会新年会 盛岡市エスポワールいわて イベントホール 23人
1/28-29	令和2年度大学院総合科学研究科理工学専攻第2期入学者選抜試験《令和2年4月入学》
1/30	令和2年度大学院理工学研究科博士課程第2期入学者選抜試験《令和2年4月入学》
1/30	「きたかみ」66号第4回編集委員会、令和元年度第3回会費検討委員会 久保田会長・柏葉相談役・立花副会長・宮手盛岡支部長・長田理事・木村理事・柳橋理事 理工学部地域連携センター
2/5	入学願書受付締切。システム創成工学科電気電子通信コース：前期24倍，後期5.1倍，同知能・メディア情報コース：前期1.7倍，後期6.1倍
2/14	知能・メディア情報コース卒業研究発表会
2/17	「きたかみ」66号第5回編集委員会、令和元年度第4回会費検討委員会 久保田会長・柏葉相談役・立花副会長・宮手盛岡支部長・長田理事・木村理事・柳橋理事 理工学部地域連携センター
2/19	電気電子・情報システム工学専攻博士課程（電気電子工学分野）博士論文にかかる公聴会
2/20	理工学専攻知能情報コース修士論文審査発表会
2/25	令和2年度理工学部一般選抜個別学力検査 前期日程
3/1	「きたかみ」66号発行5400部
3/5	新正会員歓迎会 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止
3/12	令和2年度理工学部一般選抜個別学力検査 後期日程
3/23	岩手大学学位記授与式（卒業式・修了式は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため中止） 理工学部卒業生：システム創成工学科（電気電子通信コース54名，知能・メディア情報情報コース54名） 工学部卒業生：電気電子・情報システム工学科（電気電子工学コース5名，情報システム工学コース4名） 大学院総合科学研究科（修士課程）理工学専攻修了生：電気電子通信コース35名，知能情報コース13名 大学院工学研究科博士後期課程修了生：電気電子・情報システム工学専攻1名
3/31	金天海准教授退職
4/8	岩手大学新入生オリエンテーション（入学式は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため中止） 理工学部入学生：システム創成工学科電気電子通信コース63名（うち地域創生特別プログラムものづくり系4名），同知能・メディア情報コース64名（うち地域創生特別プログラムものづくり系2名） 3年次編入学生：電気電子通信コース2名，知能・メディア情報コース2名 総合科学研究科理工学専攻修士課程入学生：電気電子通信コース30名，知能情報コース20名 理工学研究科システム工学専攻博士課程入学生：電気電子通信工学コース3名，知能情報工学コース0名
4/14	会長・事務局（柳橋）打合せ 本年度総会について等 岩手大学理工学部
5/8	「きたかみ」について阿部膳写堂と打合せ
6/1	山中克久氏が知能・メディア情報コース教授に昇任
6/6	令和2年度第1回理事会 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため延期
6/12	令和元年度岩手大学電気電子情報科会会計監査 大坊真洋会計監査・佐々木真嗣会計監査・久保田会長・柏葉相談役・柳橋副会長 岩手大学理工学部地域連携センター
6/27	令和2年度総会 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため延期
7/1	総合科学研究科（修士課程）理工学専攻推薦入学者選抜試験《令和3年4月入学》
7/22	創立80周年事業についての相談会 太田原相談役・柏葉相談役・旗福相談役・久保田会長・柳橋理事 岩手大学理工学部

7/29	令和2年度総会に向けての打合せ 久保田会長・立花副会長・恒川副会長・柳橋副会長・宮手盛岡支部長・長田理事・木村理事 岩手大学理工学部地域連携センター
8/6	岩手大学 Web オープンキャンパス開始
8/19-21	令和2年度大学院総合科学研究科理工学専攻（修士課程）入学者選抜試験《令和2年10月入学》 令和3年度大学院総合科学研究科理工学専攻（修士課程）入学者選抜試験《令和3年4月入学》 令和2年度大学院理工学研究科博士後期課程入学者選抜試験《令和2年10月入学》 令和3年度大学院理工学研究科博士後期課程入学者選抜試験《令和3年4月入学》
8/29	令和2年度第1回理事会 総会開催について・総会提案議案書審議・創立80周年について他 エスポワールいわて 14人
8/31	岩渕明前岩手大学長退任記念講演会（盛岡グランドホテル）
9/10-11	令和3年度理工学部一般編入学者選抜試験
9/25	令和2年度岩手大学修了式・卒業式（農業教育資料館） 理工学部卒業生：電気電子通信コース1名，知能・メディア情報コース1名 工学部卒業生：電子電子・情報システム工学科1名
9/30	令和3年度理工学部総合型選抜I入学試験（第1次選考）
9/下-10/上	理工学専攻電気電子通信コース修士論文中間審査会
10/1	岩手大学入学式（令和2年度10月入学者）
10/1	科会三役打ち合わせ 久保田会長・立花副会長・柏葉相談役・長田理事・木村理事・柳橋副会長 岩手大学理工学部地域連携センター
10/3	盛岡支部令和2年度総会 エスポワールいわて 12人
10/3	令和2年度第2回理事会 令和2年度事業について他 エスポワールいわて 12人
10/3	臨時理事会（兼令和2年度総会） 令和元年度事業報告・決算報告・監査報告、令和3年度事業計画・予算他 エスポワールいわて 12人
10/10	令和3年度理工学部総合型選抜II入学試験（第1次選考）
10/14	令和3年度理工学部総合型選抜I入学試験（第2次選考）
10/28	きたかみ67号第1回編集委員会 岩手大理工学部地域連携センター 久保田会長・宮手盛岡支部長・柏葉相談役・長田理事・木村理事・柳橋理事
11/13	電気電子工学専門研修 「フラッシュメモリの秘密と半導体技術の動向，そして半導体産業の拡大について」神垣哲也氏（キオクシア岩手㈱）
11/20	令和3年度岩手大学理工学部学校推薦型選抜入学試験
12/上	大学院理工学専攻（修士課程）知能情報コース修士論文予備審査会《令和3年3月修了予定者》（分野別に実施）
12/4	電気電子工学専門研修 「卒業生からのアドバイスと体験談」（東京エレクトロン㈱，キオクシア岩手㈱，㈱デンソー岩手）
12/9	理工学専攻電気電子通信コース修士課程1年次中間発表会
12/18	電気電子工学専門研修 「非接触バイタルセンシング」上田智章氏（㈱フォスメガ）
12/19	「躍動する大学院生 - 総合科学研究科ポスター発表会」（学生センターB棟多目的室） 兼 理工学専攻知能情報コース（修士課程）1年次中間発表
12/21	令和2年度ソフトパス理工学総合研究センター研究報告会（オンライン開催）
12/21	きたかみ67号第2回編集委員会、会費検討委員会、第3回理事会打ち合わせ、新年会検討会ほか 岩手大理工学部地域連携センター 久保田会長・立花副会長・宮手盛岡支部長・柏葉相談役・長田理事・木村理事・柳橋理事
12/23	電気電子工学専門研修 「CMOSイメージセンサー」盛一正成氏，佐々木崇策氏（ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング㈱）
12/26	令和2年度第3回情報処理学会東北支部研究会（オンライン開催）

岩手大学電気電子情報科会会則

第1章 総 則

- 第1条 本会は岩手大学電気電子情報科会と称する。
- 第2条 本会は盛岡高等工業学校電気科、盛岡工業専門学校電気科、岩手大学工学部電気情報系工学科、並びに岩手大学理工学部システム創成工学科電気電子通信コース、知能・メディア情報コース（以下、電気情報系コースという）及び大学院工学研究科電気情報系工学専攻並びに岩手大学大学院総合科学研究科理工学専攻電気電子通信コース、知能情報コース（以下、岩手大学大学院電気情報系コースという）の傘下集った者の親睦を図り、緊密な連絡をとり、電気工学、電子工学、情報工学に関する知識を交換する。
- 第3条 本会の本部事務所は盛岡市上田 岩手大学理工学部電気情報系コースに置く。
本会に支部を置くことができる。支部の設置は総会の承認をうけるものとする。
- 第4条 本会は第2条に定めた目的を達成するために会誌の発行、講演会等を行う。

第2章 会 員

- 第5条 会員を分けて特別会員、正会員、準会員とする。
- 第6条 特別会員は岩手大学工学部電気情報系工学科、岩手大学理工学部電気情報系コースの現・旧教職員とする。
- 第7条 正会員は盛岡高等工業学校卒業生、盛岡工業専門学校卒業生、岩手大学工学部電気情報系工学科卒業生、岩手大学理工学部電気情報系コース卒業生、岩手大学大学院工学研究科電気情報系工学専攻修了生、岩手大学大学院電気情報系コース修了生、並びに役員会の承認を経た者とする。
- 第8条 準会員は岩手大学工学部電気情報系工学科及び岩手大学理工学部電気情報系コースの在校生、並びに岩手大学大学院工学研究科電気情報系工学専攻学生、岩手大学大学院電気情報系コース学生のうち正会員でない者とする。

第3章 会 計

- 第9条 本会の会計は一般会計及び基金特別会計とする。
基金は将来のために積み立てるものとする。但し、その利息は一般会計に繰り入れることができる。
- 第10条 会費は準会員入会時に入会費として10,000円を納入する。また、卒業後10年を経過した正会員は年会費として10年毎に10,000円を納入する。
尚、納入した会費は理由の如何を問わず返却しない。
- 第11条 本会の収支は毎年4月末日に於いて決算を行い、会計監査を経て総会に於いて承認をうけ併せてこれを報告する。

第4章 会 議

- 第12条 会議は総会、臨時総会、役員会及び理事会とする。

理事会は、会長、副会長、理事及び相談役を以て構成する。

- 第13条 総会は毎年1回会長がこれを招集して出席人員を以て成立する。
- 第14条 臨時総会は役員会に於いて必要と認められた時、会長がこれを招集する。
- 第15条 役員会及び理事会は必要に応じて会長が招集する。

第5章 役 員

- 第16条 本会に次の役員を置く。
- | | | |
|------|------|-----------------------------------|
| 会 長 | 1名 | 正会員より選出する。 |
| 副会長 | 3名以内 | 正会員より選出する。 |
| 理 事 | | 正会員より互選する。
尚、各支部長は理事を兼ねるものとする。 |
| 会計監査 | 2名 | 正会員より選出する。 |
| 幹 事 | | 正会員より理事会で推薦し会長が委嘱する。 |
| 顧 問 | 若干名 | 特別会員より会長がこれを委嘱する。 |
| 相談役 | | 元会長は終身相談役として委嘱するものとする。 |

- 第17条 各役員任期は2ケ年とし、再選できる。改選は総会に於いて行なう。
但し任期中欠員ができた場合は役員会に於いて選出し補充する。
- 第18条 会長は本会を代表しその事務を総括する。
副会長は会長を補佐する。
理事は本会の庶務を掌理する。
会計監査は会計を監査する。
事務局担当理事は本会の会計を掌理し、且つ金品物件の保管の責に任ずる。
幹事は会員相互の親睦と連絡の任に積極的にあたる。
- 第19条 支部に支部長を置き、本部に準じて役員をおくことができる。

第6章 会誌、講演会及び座談会

- 第20条 本会は会誌「きたかみ」を発行して会員に配付する。
- 第21条 講演会及び座談会は随時行う。
- 第22条 支部の内規は各支部に於いて定め、会長の認可を受けることにする。
- 第23条 会則の変更は総会に於いて過半数の賛成が無ければ変更する事ができない。

付 則

- 本会則の第10条の改定は、平成16年5月1日から施行する。
(昭和17年1月1日制定)(平成4年度総会一部改正)
(昭和25年度総会一部改正)(平成11年度総会一部改正)
(昭和37年度総会一部改正)(平成12年度総会一部改正)
(昭和40年度総会一部改正)(平成15年度総会一部改正)
(昭和41年度総会一部改正)(平成20年度総会一部改正)
(昭和46年度総会一部改正)(平成21年度総会一部改定)
(昭和50年度総会一部改正)(平成22年度総会一部改定)
(昭和51年度総会一部改正)(平成27年度総会一部改定)
(昭和56年度総会一部改正)(平成28年度総会一部改定)

編 集 後 記

「きたかみ」67号をお届けします。

新型コロナ感染症拡大防止のために、社会生活が規制され、耐える日々が続いております。みなさまはいかがお過ごしでしょうか。

科会としましては3月の新正会員歓迎会が中止になったのを始めとして、仙台で開催する予定だった総会も延期せざるを得なくなりました。準備していただいた仙台支部の皆様にはご迷惑をおかけしました。

コロナで亡くなられた方にお悔やみを申し上げ、感染して療養中の方には一日も早い回復をお祈りいたします。同時に、医療関係者をはじめ、関わって奮闘しておられるすべての方に感謝いたします。

ワクチン接種が順調に進んで、一日も早い終息を願うばかりです。

また、3月11日で、あの東日本大震災・大津波から丸10年になります。

昨年3月に大船渡の友人を訪ねながら、復興の状況を見て、陸前高田の「東日本大震災津波伝承館」に寄りました。「こんなもんでなかった」というのが見学した感想です。

まち並みは整いつつありますが、復興はまだまだだと感じました。オリンピックやコロナ禍のニュースばかりですが、私たちは決して3・11を忘れてはならないと思いながら帰りました。

今号は、4月に逝去された志田純一先生の追悼特集として、4人の方々に先生を偲んで寄稿していただきました。在りし日の先生の笑顔が浮かんでくる文章ばかりです。

編集作業が終盤に差し掛かった時に、菊池孝先生の訃報が届きました。学内を闊歩している長身のお姿を思い出します。先生方のご冥福をお祈りいたします。

さて今号には、いつもは総会や各支部報告に必ずあった集合写真がありません。次号にはいつも通りに掲載できますように。

盛岡は例年のない積雪量と冷え込みです。まさに「しばれます」。でも春は確実に近づいて来ているはずです。

編集委員 久保田 賢 二 (会 長：昭和42年電気卒)
柏 葉 安兵衛 (相 談 役：昭和38年電気卒)
宮 手 敏 雄 (盛岡支部長：昭和44年電気卒)
立 花 龍 一 (副 会 長：昭和61年情報卒)
長 田 洋 (事 務 局：昭和62年電気卒)
木 村 彰 男 (事 務 局：平成3年情報卒)
柳 橋 好 子 (副会長・事務局：昭和45年電子卒)

き た か み 第67号

発行日 令和3年3月1日
発行者 盛岡市上田4丁目3番5号
岩手大学工学部内
岩手大学電気電子情報科会
☎ 019-621-6381
印刷所 (株)阿部謄写堂
盛岡市本町通2丁目8番37号
☎ 019-623-2361

郵便はがき



0208551

岩手県盛岡市上田 4-3-5

岩手大学工学部システム創成工学科内

岩手大学電気電子情報科会 行

令和3年度岩手大学電気電子情報科会総会に

出席します。

欠席します。

該当する方に○印をつけて下さい。

郵便番号：

住 所：

氏 名：

卒業学科：

卒業年：

電話・FAX：

E-mail：

通信欄

令和3年度岩手大学電気電子情報科会 総会開催のご案内

令和3年度岩手大学電気電子情報科会総会を下記の通り開催いたします。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、講演会と懇親会を中止することといたしました。

沢山の方の出席をお願いしたいところではありますが、状況を見て出欠のご判断をいただきまして、ご出席の方は、とじ込みのはがきで1か月前の令和3年5月26日までにご連絡ください。

また、昨年秋・今年春に叙勲された方をホームページや「きたかみ」等でご紹介し、祝意を表したいと思いますので、叙勲された方をご存じの方はお知らせください。

住所や勤務先変更等も同様にとじ込みはがきをご利用ください。

記

日 時：令和3年6月26日（土）

盛岡支部総会 午前10時～10時30分

総 会 午前10時30分～12時

場 所：エスポワールいわて

盛岡市中央通り1丁目1-38 電話 019-623-6251

議 案：1. 令和2年度事業報告、決算報告承認

2. 令和3年度事業計画案、予算案審議

3. 80周年記念事業について

4. その他

連 絡 先：総会出欠や叙勲された方のお知らせ等、会誌「きたかみ」に綴込みのはがきを使用するか、下記事務局宛電話、FAX又はE-mail等でご連絡下さい。

岩手大学電気電子情報科会 E-mail：iwate.ddj.kakai@gmail.com

岩手大学電気電子情報科会事務局（岩手大学理工学部内）

電気電子通信コース担当 長 田 洋 TEL・FAX 019-621-6381

知能・メディア情報コース担当 木 村 彰 男 TEL・FAX 019-621-6488

庶務会計・学外担当 柳 橋 好 子 TEL・FAX 019-686-2253